

業務改革コンサルティング技術体系

consulting **JBB** 日本ビジネスブレイク株式会社

(<http://www.jbb-con.co.jp>)

佐々木伸

1. 定義：業務改革とは、企業活動の目標(売上高、利益、キャッシュフロー等)を達成するために業務機能、プロセス、業務方式、組織構造を分析、見直し、最適化する改革活動である。

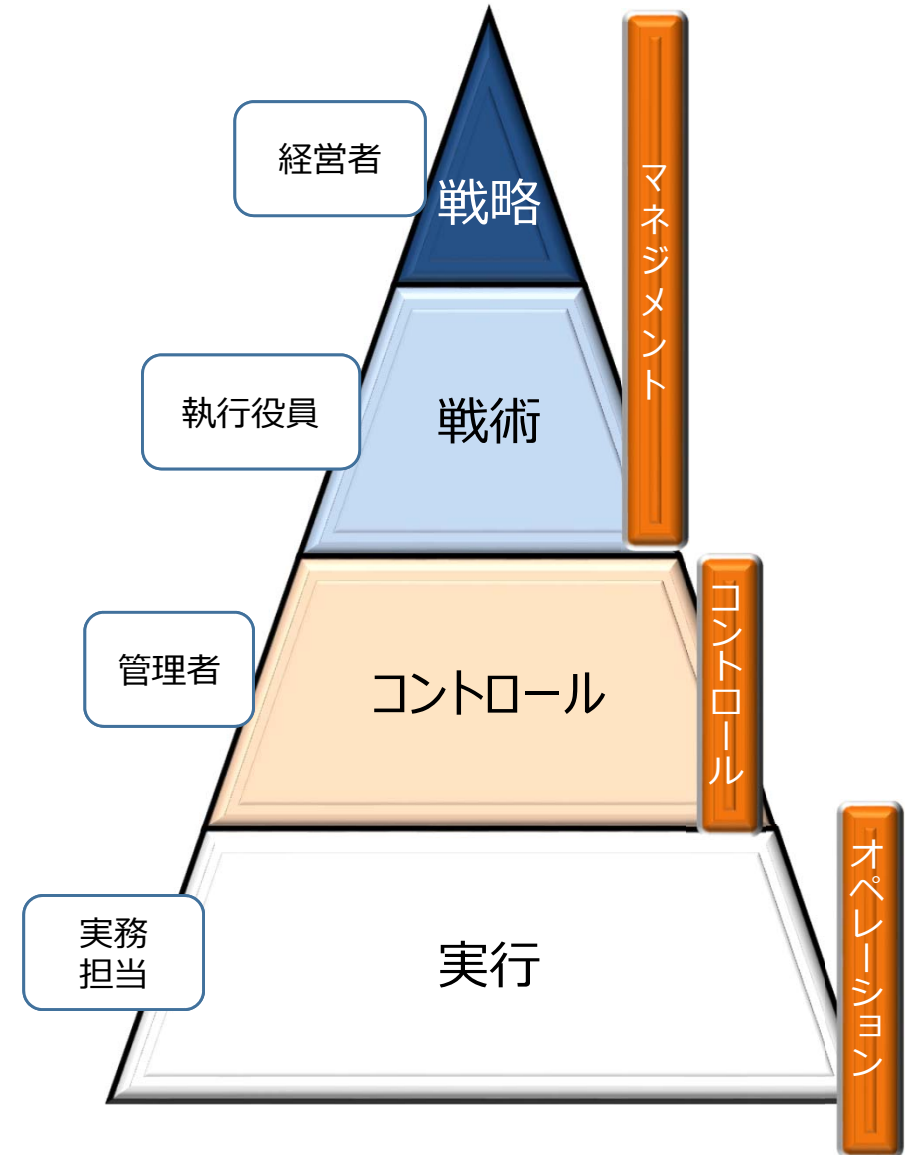
2. 特徴：

①ビジネスモデル、バリューチェーン、サプライチェーンの企業骨格を根本的に見直すと共に、仕事そのものを業務方式から抜本的に見直す。

②幅広いプロセス視点から職務、業務フロー、管理機構、IT迄を見直す。

③目標管理を徹底する。

3. 改革の視点：企業経営の組織機能に立脚して右図のようにマネジメント、コントロール、オペレーションから構成する。



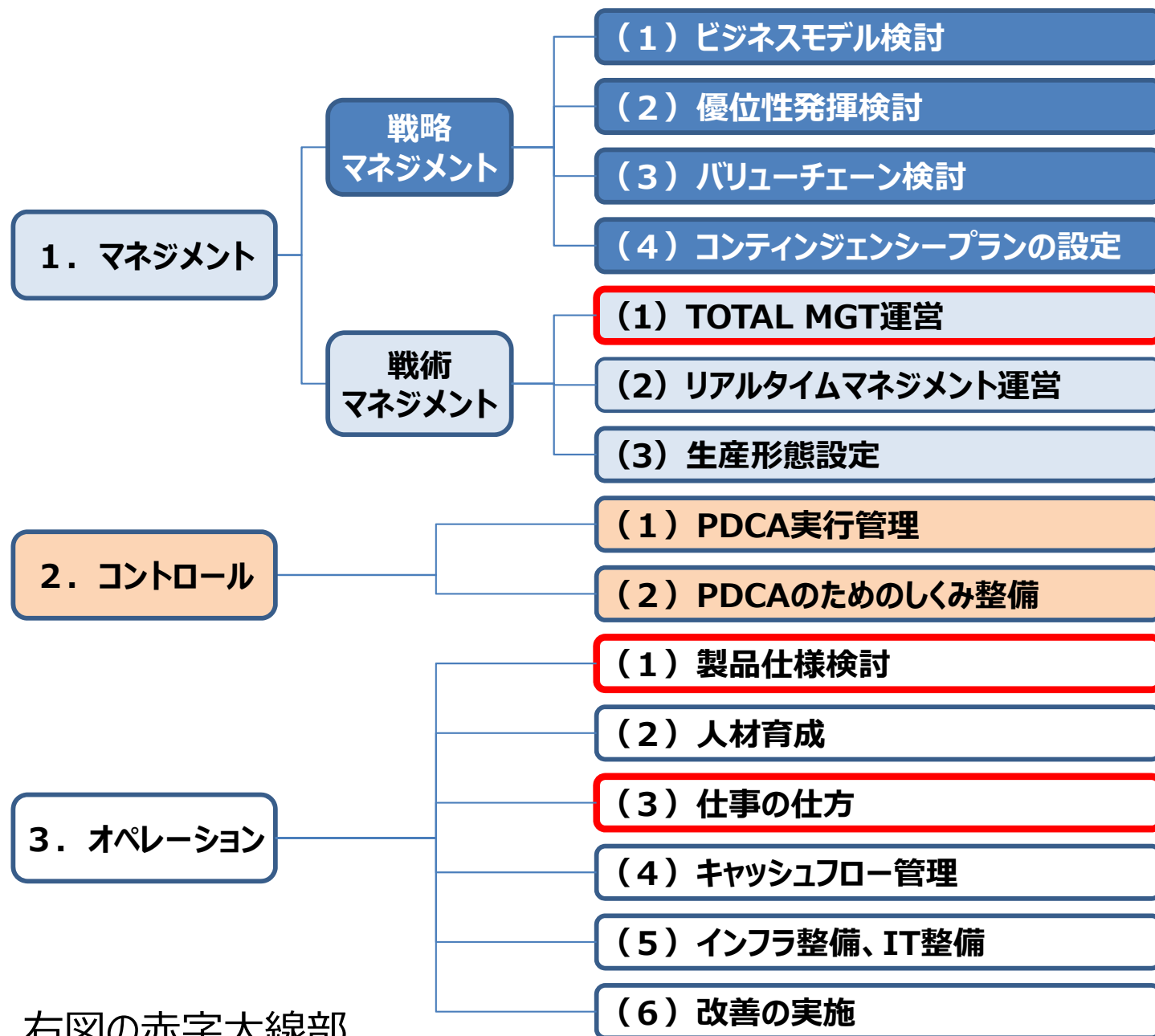
改革の視点体系

4. 視点に沿った改革方向

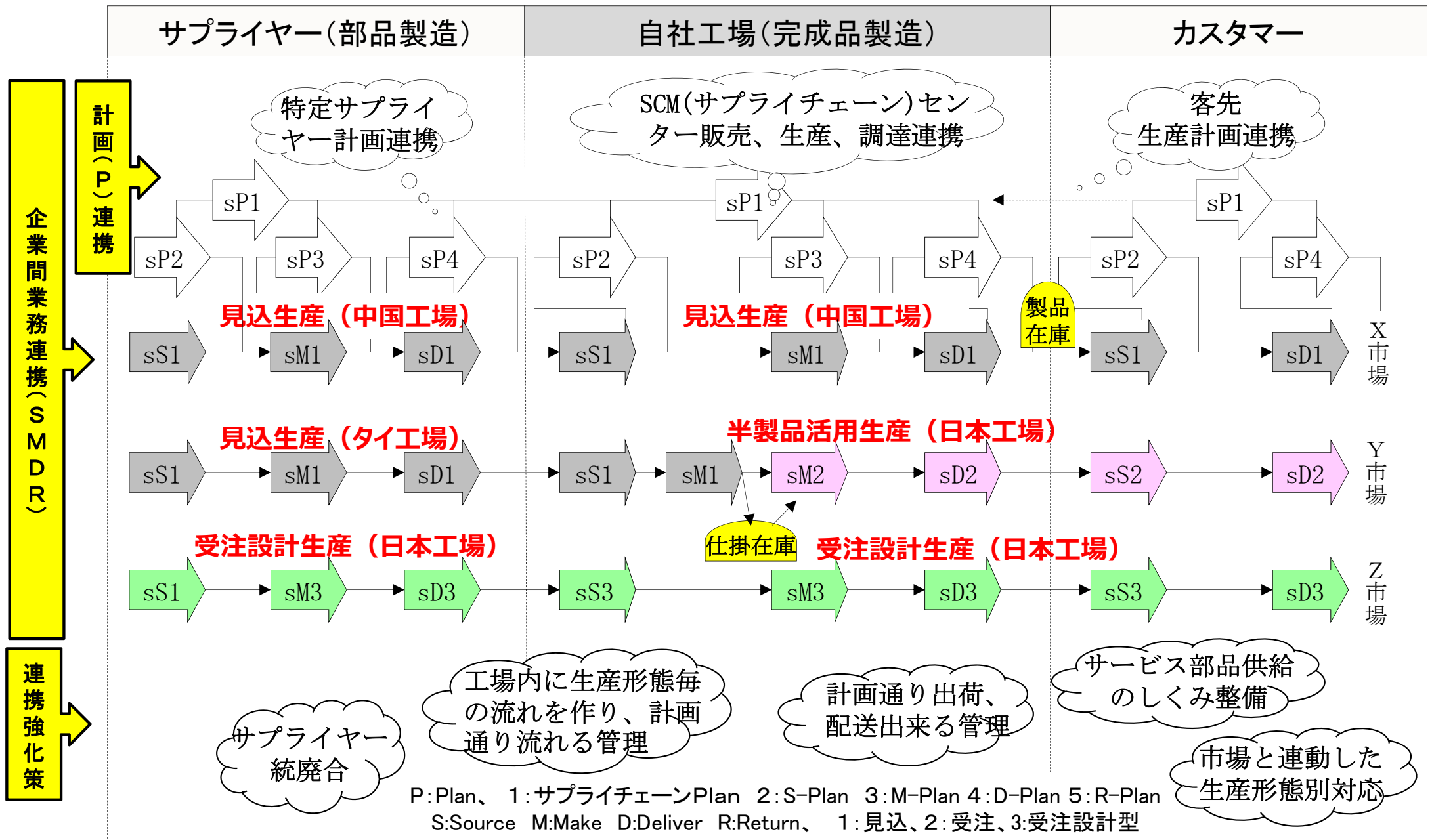
企業の組織に沿った改革の為の検討すべき方向がある。それは右のように経営トップ層はマネジメント領域であり、中間管理層はコントロール領域であり、担当者層はそれぞれの部門の機能にそった方向性を検討する必要がある。

この観点毎に自社の実態、他社の実態、自社の今後の方向性を真剣に考えることが望まれる。それを支援するのがコンサルタントである。ここに外部コンサルタントを活用してほしい。

次頁にいくつかの事例を紹介する。右図の赤字太線部

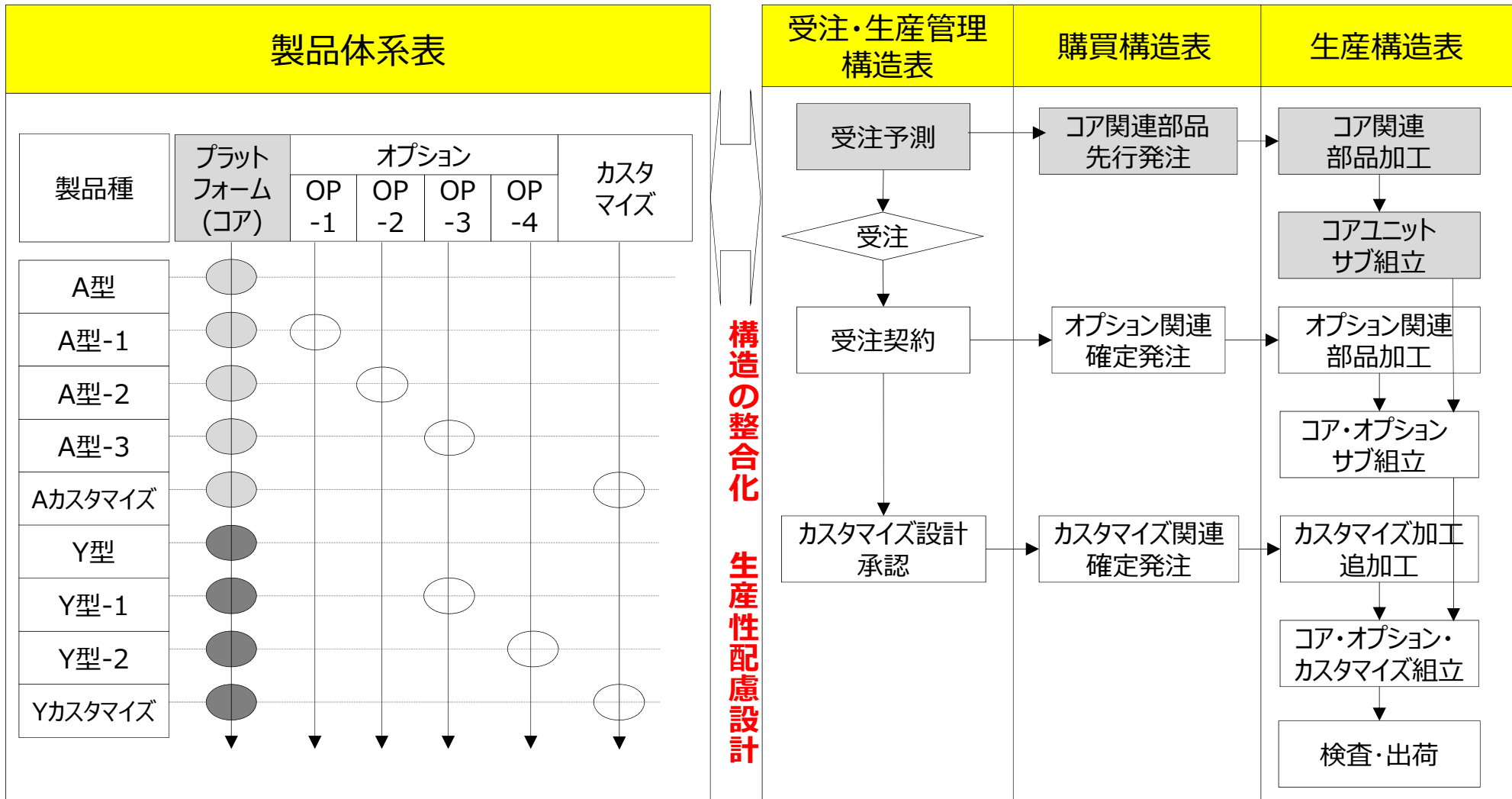


5. トータルマネジメント検討例：SCM構造の例を示すと、図のように同じ生産形態で企業間を連携したマネジメントが必要となる。このような理想像を描き、着実にそこへ引っ張って行く力が必要である。



6. オペレーション：製品仕様検討例

製品仕様の検討は、お客様満足と下流の生産管理、購買、製造との整合性を取る必要がある。図は顧客対応と生産対応の両立を考えた製品体系図である。このような多くの組織の整合性を取る活動こそコンサルタントが得意で、プロジェクト体制を組んで行っている。



顧客対応と生産対応の両立を考えた製品体系

7. オペレーション：仕事の仕方検討例

在庫の増大は仕事の仕方が原因となることが多い。その為には以下のような体系的な検討を必要とする。企業では多くの部門が関わるこのような活動は意外と不得意である。コンサルを使ってほしい。



在庫削減方法体系表